

## 謹んで新年のご挨拶を申し上げます

新年にあたり、昨年の活動を振り返ることから始めさせていただきます。

昨年は熊本地震のような大きな地震災害は幸いにして起きませんでした。世界各地で起こる異常気象、我が国でも昨年7月の九州北部豪雨、8月の台風18号は甚大な被害をもたらしました。そんな中、協会の課題研究として取り組んできた‘熊本地震による医療施設、高齢者施設の被害状況に関する調査研究’（医療施設＝小林健一（国立保健医療科学院）代表、高齢者施設＝石井敏（東北工業大学）代表）の報告書がそれぞれ昨年度にまとめられ、医療施設の方は9月のフォーラムでも議論の対象として取り上げられました。この中で、東日本大震災を受けて協会として発信してきた大災害に対する医療施設のあるべき姿、対策についての提言の有効性を議論できたことは、有意義なことだったと実感できました。

その他、順に協会の活動を振り返ります。先ず、研修事業です。月例の見学会、病院／福祉建築基礎講座、医療福祉建築フォーラムは例年通り順調に推移し、それぞれ多くの参加者を得て実りある成果を挙げたと考えています。充実した講座・フォーラムが運営できていることは、当協会の存在意義に照らして重要と言えます。企画にあたられた事業委員会、及び、講師をお勤めいただいた諸氏に感謝申し上げます。若手育成とJIHaの次世代幹部育成を目的とした「JIHa ユースクラブ2017」は、今年は大阪で実施しています。14名の参画を得て、活発な活動が開始されています。

顕彰事業では、「医療福祉建築賞2017」に29点の応募を頂き、笈淳夫委員長（工学院大学）の元で審査がすすんでいます。

この顕彰事業では、特徴的な制度が発足しました。それは、‘我が国の医療福祉建築の質的向上・発展に寄与する、又はこれに範を示すと認めうる優れた業績等を表彰する制度として「日本医療福祉建築協会 協会賞」の制度を創設する’、とするものです。一昨年より約1年間かけて運営委員会、理事会で議論し、この制度を創設しました。その授賞対象として‘公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院（岡山県：1,166床）’‘辻野純徳氏（UR設計）’を選定し、10月に表彰式を行いました。詳しい経緯や選考理由は、会誌「医療福祉建築198号」（2018年1月発行）に記しましたので、ご参照ください。

その他、編集発行事業、情報発信事業等も例年通り、順調に進行しております。

国際交流事業では昨年は実りある年でした。海外研修は、石井敏先生を団長とする研修団が10月に北欧を訪れました。定員一杯の参加者を得て、大変充実した研修内容だったと報告されています。更に昨年は、当協会が当番の東アジアシンポジウムが11月に開催されました。中国、韓国、そして当協会からも、多くの医療福祉建築家が参加し、盛況裏に催されました。発表内容も回を重ねるごとに充実・進化している、との印象を持ちました。

本年も、当協会の着実な歩みをしっかり維持していきたいと考えております。超高齢社会における重要な社会基盤としての医療福祉建築の尚一層の整備の推進などに努力が求められる年になると考えます。当協会の担うべき役割もなお一層重要性を増すものと考え、心を引き締めている次第です。

末筆ながら、当協会の会員の皆様のなお一層のご活躍を祈念いたします。

2018年 元旦

一般社団法人 日本医療福祉建築協会

会長 上野 淳

## 会誌「医療福祉建築 198号」発行遅延のお詫び

会誌「医療福祉建築 198号（2018年1月号）」ですが、諸事情により発行が遅れており、今月17日に発送の予定となります。

会員の皆様、ご購入の皆様には大変ご迷惑をお掛けし誠に申し訳ございませんが、なにとぞご了承くださいますようお願い申し上げます。

JIHa 編集委員会 委員長 岡本 和彦